

平成26年度事業実績

本事業の目的である福祉・教育の現場で活躍する聴覚障がい当事者を養成するということが注目され、日本経済新聞に7月28日『『当事者研究』広がる一自らの障害に向き合う』として報道された。その中では入試科目への「日本手話」の導入、「手話による教養大学」、当事者ソーシャルワーカーの養成等について取り上げられた。その他大学進学支援について10月19日NHK教育テレビ(Eテレ)「ろうを生きる難聴を生きる」で取り上げられ、好評であったとのことで1月4日に再放送された。11月にはレジャーチャンネルの「スマイル」で、繰り返し報道された。12月から聴力障害者情報文化センターが取材をし、本学の情報保障についてのDVDを作成してくれた。2015年4月以降、そのDVDを全国の聾学校等に無料配布して下さるとのことである。以下にその内容と実施状況をまとめ、課題を挙げる。

1. 事業1 「日本手話による教養大学」

日本社会事業大学文京キャンパス(一部清瀬キャンパス)にて、ろう者講師が担当し手話で教授する「手話による教養大学」を開催した。「日本手話」が科目に入った聴覚障がい学生枠の入試が初めて行われ、その入試で合格した聾学校からの学生が、一年次から積極的に受講した他、二年次以上の学生や単位互換制度を利用した他大学の学生、また聴講生として一般の方も受講した。

年間開講予定科目20のうち、上半期は11科目開講し、受講生はのべ61名であった。下半期は9科目開講し、受講生はのべ186名であった。ろう学校からの学生にとって母語で教育を受けられる非常に大きな意義のある講座となった。

2. 事業2 学内支援

(1) 社会福祉学部授業における情報保障者の提供

本事業の中心である学部入学後の支援について、浸透してきたようで、11月にはレジャーチャンネルの「スマイル」で、繰り返し報道された。12月から聴力障害者情報文化センターが取材をし、本学の情報保障についてのDVDを作成してくれた。2015年4月以降、そのDVDを全国の聾学校等に無料配布して下さるとのことである。

この情報保障は、ノートテイク、PCテイク、手話通訳で、対象学生は、学部一年生1名、二年生3名、三年生1名、四年生1名、大学院博士後期課程1名、大学院修士課程1名、通信教育課精神保健福祉士養成課程1名、通信教育課社会福祉士養成課程3名、社会福祉主事に2名、計15名であり、一昨年に比して倍増しているが、支援を行うにあたっては、対象学生と入念なミーティングを行い、各学生の状況及び各授業の教育目的に沿った支援を行うよう心掛けた。そのため、一部は外部の通訳者を活用した。学生支援者は約90名が協力の登録をしている。

(2) 精神保健福祉士養成課程・社会福祉士養成課程スクーリングでの通訳者の提供

通信課程については、9月、11月に行われたスクーリングでは高度な内容を考慮し、手話通訳士資格を有する活動経験の豊富な通訳者をお願いした。

(3) 情報保障者養成の実施

2013年度より、大学として獲得した文科省産業連携GPの予算でも情報保障のプロを学内に招いての講習会を開催したが、その際には学内外の広報をプロジェクト室で積極的に行った。これは宇都宮大学、電気通信大学(幹事校)、亜細亜大学、北里大学、創価大学、東京経済大学、横浜国立大学、武蔵野大学、神奈川工科大学、昭和音楽大学、山梨英和大学、和泉短期大学、昭和音楽大学短期大学部の13大学と連携した「関東山梨地域大学連携による産業界のニーズに対応した教育改善」(平成24年～26年)で、キャリア教育の充実・発展を目指すものであった。その中で本学の情報保障支援者養成は最も注目され、13大学の中で聴覚障がいを持つ高校生を積極的に受け入れ始めた大学もあり、様々な問い合わせを受けた。

養成の事業としては全体として、テイクのスキルを身に付けようとする初心者がトレーニングを始められるチャンスを毎月1度は作った。また学内の学生はふらりとプロジェクト室を訪れても、テイクの練習ができるような雰囲気と体制をつくっている。4年前数名から始めたパソコンテイクは現在90名の登録者があり、そのうち30名以上が常時活躍している。

(4) ろう・難聴スペシャルデーの開催

8月23日・24日、入試改革の説明会を兼ねて聴覚障害をもつ受験生のためのオープンキャンパスを清瀬キャンパスで開催した。手話通訳・パソコンテイクつきの進学相談や、支援者および聴覚障害の在学学生と高校生やその保護者たちとの交流会も開催した。またろう文化を紹介した書籍やDVDの紹介コーナーも設けた。聴覚障害の学生・保護者ら約10名に一日キャンパスの中で過ごしてもらい居心地のよさを体験してもらった。在学中の聴覚障害学生も参加し、高校生へのアドバイスや、大学紹介をしてくれた。また大学入学後の体験模擬授業として「日本手話」の授業を1日2回行った。

(5) オープンキャンパスでの支援実施

大学で毎年実施するオープンキャンパスでも、来場者の希望するプログラムに手話通訳・PC通訳を配置した。各回数名の来校者がいた。プロジェクト室のスタッフは必ず出勤し、聴覚障害をもつ高校生の急な参加にも対応できるようにした。

(6) 支援者の学習会

8月1日・1月24日に支援者・プロジェクト室のスタッフが集まり、支援のあり方・指導・研修方法などの意見交換をした。

(7) 国家試験対策講座

当事者ソーシャルワーカーの養成として、社会福祉士国家試験の対策講座を10月3日～11月14日の期間、毎週金曜日に全7回開講した。受験を控えた4年生だけでなく、1～3年生も受講した。また本学学生だけでなく、他大学の学生なども数多く参加し、合計12名が参加した。

また、1月23日にも直前講習という形で講座を開講した。6名が参加し、講義と質疑応答の形で直前対策を行った。

3. 事業3「ろう・難聴高校生の学習塾」開講

聴覚障害を持つ高校生を対象に、ろう者の講師が手話で教えるクラス、聴者の講師が情報保障付きで教えるクラスの両方を用意した塾を開講した。1学期・2学期・3学期に加えて、夏期講習、冬期講習を開講した。

1学期は5月16日～7月11日の毎週金曜日、全9回開講し、15名が参加した。夏期講習は8月13日・14日・15日の3日間開講し、14名が参加した。2学期は9月26日～11月21日の毎週金曜日、全9回開講し、16名が参加した。冬期講習は12月19日・20日・21日の3日間開講し、18名が参加した。3学期は1月23日～3月13日の毎週金曜日、全8回開講し、31名が参加した。

- 1学期：5月16日（金）～7月11日（金）毎週金曜。9週。

	ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
18:00-19:30	英語標準	数学基礎	英語受験	英語標準	国語受験	数学標準
19:40-21:10	英語基礎	国語標準	国語受験	国語標準	英語受験	数学基礎

- 夏期講習：8月13（水）・14日（木）・15日（金） 3日間。

		ろう者講師 手話クラス		聴者講師 情報保障付きクラス		
13日 (水)	17:00-19:00	数学標準	英語基礎		英語受験	国語基礎
	19:00-21:00	英語基礎	数学基礎		国語標準	数学基礎
14日 (木)	17:00-19:00	数学標準	英語基礎	数学標準	英語受験	国語基礎
	19:00-21:00	英語受験	数学基礎	数学基礎	国語標準	国語受験
15日 (金)	17:00-19:00	数学標準	英語基礎	数学標準	英語受験	国語基礎
	19:00-21:00	英語受験	数学基礎	数学基礎	国語標準	国語受験

- 2学期：9月26日（金）～11月21日（金）毎週金曜。9週。

	ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス			
18:00-19:30	数学基礎	英語標準	数学基礎	国語受験	英語標準	英語受験	数学基礎
19:40-21:10	英語受験	英語標準	英語基礎	英語受験	国語標準	国語受験	数学標準

- 冬期講習：12月19日（金）・20日（土）・21日（日） 3日間。

		ろう者講師 手話クラス		聴者講師 情報保障付きクラス		
19日 (金)	17:00-19:00	英語基礎	数学標準	英語標準	国語受験	数学基礎
	19:00-21:00	数学基礎	英語標準	英語受験	国語標準	数学標準
20日 (土)	17:00-19:00	英語基礎	数学標準	英語標準	国語受験	数学基礎
	19:00-21:00	数学基礎	英語標準	英語受験	国語標準	数学標準
21日 (日)	13:30-15:30	英語基礎	数学標準	英語標準	国語受験	数学基礎
	15:30-17:30	数学基礎	英語標準	英語受験	国語標準	数学標準

- 3学期：1月23日（金）～3月13日（金）毎週金曜。8週。

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
18:00-19:30	国語基礎	英語標準		国語基礎	国語標準	数学標準	
19:40-21:10	英語基礎	数学基礎	英語標準	英語標準	国語標準	数学基礎	

昨年度に引き続き、1コマ90分とし、国語（現代文・小論文）・数学・英語の授業を開講した。その結果、1日に受講できる科目は2科目となったが、より丁寧な指導が可能になった。2013年度に引き続き、中学3年生も受け入れ、高校進学への指導も行った。2013年度に受け入れた中学3年生も全員高校進学後も引き続き塾に通っている。今年度は大学の一般入試を受ける受講生からの要望で、冬期講習を3日開講し、予算の関係で春期講習は開講できなかった。

大学進学希望の受験生は5名で、5名全員が大学に合格し、進学した。そのうち2名は日本社会事業大学に合格し、進学した。今年度も受験生に1年生から学習塾に参加している受講生が2名おり、学習塾での指導の成果が出ていると思われる。

卒業生の進学先大学一覧は以下の通りである。

2014年度「ろう・難聴高校生の学習塾」卒業生進学先大学一覧

進学先	人数	出身高校名
大正大学	1	中央ろう学校
帝京大学	2	中央ろう学校・浪人生
日本社会事業大学	2	筑波大学附属坂戸高校・川越南高校

昨年度に引き続き、中学生からの問い合わせが増えている。昨年度までは中学生は基礎クラスで指導を行ってきたが、高校生よりもレベルが高い中学生の受講生もおり、学習レベル・年齢が多様化している。今まで通ってきていた受講生の弟・妹や後輩などの参加も多い。

10月19日にNHK教育テレビ（Eテレ）「ろうを生きる・難聴を生きる」で取り上げられ、好評であったとのことで1月4日に再放送された。その結果、3学期には受講生が急増し、講師も教室も足りない状態になった。

中央ろう学校、葛飾ろう学校に加え、大宮ろう学校からの受講生も増え、手話クラスの講師

の増員が必要になった。受講生の年齢・レベルが多様化する中で、限られた予算でいかに時間割を作成し指導にあたるかが今後の課題となろう。

人数が増えているのは情報保障付きクラスについても同様で、今後希望者全てにPCテイク付の授業を用意することが難しくなる可能性もある。

課題もあるが、問い合わせ・受講生の増加はそれだけニーズがあるということの表れであり、一人一人のレベルに合った指導を今後も続けていきたい。

学習塾は基本的に高校生向けであると説明をしているが、中学生以下のろう児の保護者からの問い合わせも急増している。

総括

本事業の浸透は、マスコミからの注目や、高校生の塾への受講生急増、中学生以下の親御さんからの問い合わせの急増に現れている。

2013年度、入試への「日本手話」の導入を行い、その入試で入学した初めての学生を迎えた。学部生・大学院生8名の聴覚障がい学生の在学は学部800名の大学としては極めて多数の聴覚障害の学生が在籍していることになる。大学院にも初めて修士の入学生を迎え、通信科にも2名の学生が在籍していた。当事者ソーシャルワーカーの養成として重要な国家試験対策は他大学からもニーズが高いため、秋から毎週開催した。

修士課程の学生は博士課程の学生と違い、授業が多いため、大学院レベルの授業の支援者が多数必要となった。また英語・アメリカ手話のできる手話通訳も必要となり、そのような人材は少なく、費用も高いため、今後少なくとも英語だけでも堪能な通訳・パソコンタイカーの養成が今後の課題である。

さらに学部の入試において多様な聴覚障がいをもつ学生を受け入れられる体制が整ったため、2015年度には過去最高の学部生4名が入学し、情報保障支援者の養成をさらに増やすことが課題である。また多様な聴覚障がい学生が同じ授業を履修する際にどのような情報保障をつけるかということ調整することも含め、コーディネーターがさらに多忙になるので、そのサポート体制も課題となる。